

平成26年度 竹の台地区防災計画策定にかかるワークショップ 実施報告書

	内容	実施日	会場	参加対象	参加人数
1	学習会（1） 「京都市における避難所運営マニュアル 策定の実際について」 京都市東山区役所 樋口係長	7月20日 （日）	福祉セ ンター	自治会・管 理組合・地 域団体・行 政職員他	30名
2	学習会（2） 「西神ニュータウンで想定される自然災害 について」 明石工業高等専門学校 特命教授 太田 敏一 氏 神戸市消防局予防課	9月21日 （日）	福祉セ ンター	学校園・地 域団体他	34名
3	避難マニュアル（おたすけガイド）作成 ワークショップ（1） 神戸市消防局予防課 神戸西消防署	11月9日 （日）	竹の台 小視聴 覚室	自治会・管 理組合・地 域団体・行 政職員他	34名
4	避難マニュアル（おたすけガイド）作成 ワークショップ（2）	2月8日 （日）	竹の台 小視聴 覚室	〃	30名

1. 学習会(1)

- ・テーマ：「京都市における避難所運営マニュアル策定の実際について」
- ・目的：地区防災計画・避難所運営マニュアルの具体的な作成方法について、実際に京都市で実務を行っている方から事例を紹介していただく。
- ・日時：平成26年7月20日（日）14時～16時
- ・場所：竹の台地域福祉センター
- ・講師：京都市東山区役所 地域力推進室 地域防災係長 樋口 博紀さま
- ・参加者：30名
竹の台地区自治会・管理組合役員 11名、地域団体 2名（老人会・青少協）
防コミ役員 3名、竹の台地域委員会役員 7名、
西区選出市議員 2名、西消防署 4名、西区役所 1名

2. 学習会(2)

- ・目的 地区防災計画作成にあたり、竹の台地区を含む西神ニュータウン地区で想定されている災害の種類や規模、避難所開設が想定されるケースについて学ぶ。
- ・日時：平成26年9月21日（日）10：00～
- ・場所：竹の台地域福祉センター
- ・内容：（1）西神ニュータウンで想定される自然災害について
講師：明石工業高等専門学校 特命教授 太田 敏一 氏
（2）災害時に組織的な活動ができる自主防災組織について
～阪神・淡路大震災20年に向けて～
講師：神戸市消防局予防課予防担当係長 谷輪 文彦 氏
- ・参加者 小中学校校長・桑の木幼稚園・竹の台保育園・竹の台児童館
竹の台地域委員会 10名、防コミ2名、青少協1名、民児協2名、
地域防犯グループ1名、NPO2名、他防コミ4名（地域計 27名）
消防 5名 講師 2名 合計34名

【講義内容】

○西神中央に関係のありそうな災害（太田先生）

1. 地震

①南海トラフ巨大地震（海溝型）

発生確率・・・30年以内に70%（必ず起こる）

震度予測・・・震度6強／被害予測・・・建物倒壊

新耐震基準（1981年以降）の建物でも倒壊の恐れあり→要耐震診断

・・・経済的損失

GDPの30%（関東大震災並み）→ライフラインと物流がストップ

広域災害のため、救援・救助が届かないことも→備蓄や救助は自分たちで

②山崎断層（直下型）

発生確率・・・1000年に一度程度動くが、予測がつかない

（発生確率はあてにならない。阪神淡路も0.02～8%）

直下型のため、戸建ての家に影響が・・・阪神淡路のときゆすぶられている家は要注意

2. 豪雨災害

- ・西神中央で浸水するのは、竹の台交番→側溝より入口が低い
- ・側溝→雨水幹線→河川→海 大雨が降ったら側溝は溢れるもの
- ・ニュータウンは洪水調整池があり、街から川へ流れる水の量を調整
- ・S13,42の豪雨でも耐えられるように配置
- ・しかし、それ以上の豪雨の際には、河川にそのまま流れる

- ・櫛谷川・・・30年に一度の大雨に耐えられるよう調整中
- ・櫛谷川が溢れた時に、NTの避難所を開設し、迎え入れることは考えられる

○消防・谷輪係長

- 火災・・・プラグ火災（こまめな掃除）、煙感知器と消火器の設置
- 地震・・・「火災優先」地域住民で救出救助

○結論

竹の台で取り組むべきこと

震災対策：事前に

耐震診断→耐震補強／家具の固定／備蓄／家族どうしの連絡体制（帰宅困難者）

発災後

救助／救命／消火（事前は実技訓練）

豪雨対策：側溝の清掃／避難所の開設と運営（迎え入れる体制を整備）

3. 第2回 ワークショップ（1）

- ・目的：竹の台の避難計画（発災から24時間まで）策定
- ・日時：平成26年11月9日（日）9：30～12：00
- ・場所：竹の台小学校（視聴覚室）
- ・参加者：34名
自治会・管理組合（16名）、地域団体（6名）、地域委員会（7名）
学校関係（2名）、NPO（2名）、行政職員（1名）
- ・内容：

丁目ごとに分かれて班になり(1班7～8名)×6班、災害・被害想定を提示し、家～避難所までの避難について話し合った。

- ①家族の安全確認
- ②近所の安否確認・被害状況確認
- ③自治会・管理組合・班で集合・・・安否確認・被害状況確認、救助・誘導・消火
- ④避難所への避難

各ステップで課題となることや必要なもの（個人・地域・行政＝自助・共助・公助）

※資機材倉庫の位置とその中身、消火栓の位置、西区ハザードマップの確認など

4. 第4回 ワークショップ（2）

- ・目的：前回のワークショップを受けて、竹の台全体の避難計画を作る
 - ・日時：平成27年2月8日（日）9：30～12：00
 - ・場所：竹の台小学校聴覚室
 - ・参加者：30名
自治会・管理組合（17名）、地域団体（3名）、地域委員会（8名）
NPO（2名）
 - ・内容：
- ①自治会・管理組合の一時集合場所、資機材倉庫、災害リスク（危険箇所）の確認（地図に記載）
 - ②図上訓練
南海トラフ巨大地震 震度6弱を想定し、ブロックと防コミ本部に分かれて情報伝達・集約・対応について実地で訓練を行った。